

養護老人ホーム入所者の施設内 人間関係に係る要因の検討

表 志津子
白 井 みどり
柳 堀 朗 子

I はじめに

人口の高齢化、世帯規模の縮小、扶養意識の変化等により家庭での介護力は低下し、高齢者を取り巻く環境は複雑化している¹⁾。住み慣れた地域で暮らせることが望ましいが、心身の老化とともに生活の自立度が低下した高齢者が家族の扶養や介護を望めない場合は、生活の場を高齢者福祉施設へと変えざるをえないことがある。

在宅から施設へと環境が変化すると、高齢者を取り巻く人間関係も変化することになる。新しい人間関係を作り施設での生活を送ることは、高齢者の社会性の低下や適応能力の低下などの特性を考えると容易ではない。そこで今回は養護老人ホームという環境の中で、高齢者の人間関係に影響を及ぼす要因について生活満足感、健康満足感の側面から検討し、施設入所者のケアを考える上での示唆を得たので報告する。

II 研究方法

1. 調査対象：愛知県内のA養護老人ホーム入所者70名のうち、調査期間中に入院中の者及び質問紙による聞き取りが困難な者を除く64名を対象とした。今回は結果に影響を及ぼすと考えられる精神疾患を有する者9名を除いた55名を分析対象者とした。
2. 調査期間：平成8年3月
3. 調査方法：質問紙を用いた面接による聞き取り調査を行った。調査内容は、施設内人間関係、生活満足感、健康満足感、健康状態、日常生活状況等とした。施設内人間関係にはサポータティブネットワーク項目²⁾を用い、該当の有無を質問した。生活満足感は「生活が楽しいか」「経済的余裕があるか」「平穏な生活か」「今の生活に不満があるか」の4項目について該当の有無を質問した。健康満足感は「満足している」「どちらでもない」「不安である」の3段階で質問した。また、日常生活状況は、整容・トイレ・入浴・移動・更衣・電話・買物・外出・服薬管理・金銭管理の項目について、その支障の程度を「自立」「見守りが必要」「要介助」の3段階で質問した。

データの分析には統計ソフト SPSS 9.0J forWindows を用い、性別による差、施設内人間関係と生活満足感及び健康満足感の関連について χ^2 検定を行い、各セ

表 志津子・白井 みどり・柳堀 朗子

ルの期待値が5以下の場合には Fischer の直接確立法を使用した。統計学上の有意水準は0.05とした。

Ⅲ 結果

1. 対象者の特徴

調査対象者は、男性27名（49.1%）で平均年齢75.9才、女性28名（50.9%）で平均年齢76.4才であった。対象者が有する主な疾患は、高血圧24名（43.6%）、骨・関節疾患14名（25.5%）、消化器疾患14名（25.5%）、呼吸器疾患8名（14.5%）などであった（重複回答）。

日常生活動作状況を表1に示す。基本的な日常生活動作である整容、排泄、入浴、移動、更衣についてはほとんどの者に援助の必要はなかった。生活関連動作では、電話で約3割、買物で約1割の者が見守りを含めた援助を必要としていた。外出、服薬管理、金銭管理では約半数の者が援助を必要としていた。対象者の年齢、人数、基本的日常生活動作、生活関連動作のいずれにも性別による有意差はなかった。

表1 入居者の日常生活動作の状況

	男 (人数)				女 (人数)			
	n	自立	見守りが必要	要介助	n	自立	見守りが必要	要介助
整 容	27	26	1	0	28	28	0	0
排 泄	26	26	0	0	28	28	1	0
入 浴	27	27	0	0	28	28	3	0
移 動	26	23	3	0	28	28	2	0
更 衣	26	26	0	0	28	28	0	0
電 話	26	15	10	1	27	21	6	0
買 物	26	24	2	0	24	21	1	1
外 出	25	16	8	1	28	18	8	2
服薬管理	27	10	17	0	28	15	13	0
金銭管理	26	10	13	3	27	10	16	1

2. 性別にみた生活満足感と健康満足感

生活満足感について性別に検討した結果を表2に示す。「生活が楽しい」と回答した者は男性11名（40.7%）、女性21名（75.6%）で、性別による有意な差（ $p < 0.05$ ）がみられ、楽しいと回答した者は女性が多かった。

表2 生活についての満足感

生活の満足感	n	男 (%)	女 (%)
今の生活が楽しいと思う	32	11 (40.7)	21 (75.0) *
趣味や日常生活に困らない経済的余裕があると思う	23	16 (59.3)	7 (25.0)
過不足のない平穏な生活を送っていると思う	31	10 (38.5)	21 (77.8) **
今の生活に不満がある	22	16 (61.5)	6 (22.2)
	43	19 (73.1)	24 (85.7)
	11	7 (26.9)	4 (14.3)
	12	5 (18.5)	7 (25.0)
	43	22 (81.5)	21 (75.0)

$p < 0.05$ ** $p < 0.01$

養護老人ホーム入所者の施設内人間関係に係る要因の検討

「経済的余裕がある」と回答した者は男性10名（38.5%）、女性21名（77.8%）で、性別による有意な差（ $p < 0.01$ ）がみられ、経済的余裕があると回答した者は女性が多かった。本施設では入所者の自己負担により補食の購入をしたり、夕食時にアルコール飲料を飲むことが出来るようになっていた。

「平穏な生活である」と回答した者は男性19名（73.1%）、女性24名（85.7%）で、性別による有意な差はみられなかった。

「生活への不満がある」と回答した者は男性5名（18.5%）女性7名（25.0%）で、性別による有意な差はみられなかった。

健康満足感について性別に検討した結果を表3に示す。今の自分の健康について「満足している」と回答した者は24名で、うち男性11名（40.8%）、女性13名（46.4%）、「不安がある」と回答した者は20名で、うち男性10名（37.0%）女性10名（35.7%）であった。性別による有意な差はみられなかった。

表3 健康についての満足感

健康満足感	n	男 (%)	女 (%)
満足している	24	11 (40.8)	13 (46.4)
どちらでもない	11	6 (22.2)	5 (17.9)
不安である	20	10 (37.0)	10 (35.7)

3. 性別にみた施設内の人間関係

施設内の人間関係について性別に検討した結果を表4に示す。「心配事や悩み事を聞いてくれる人がいる」と回答した者は男性4名（14.8%）女性14名（50.0%）であった。性別で有意な差（ $p < 0.01$ ）がみられ、心配事や悩み事を聞いてくれる人がいると回答した者は女性が多かった。

表4 施設内の人間関係

施設内人間関係	n		男 (%)	女 (%)	
心配事や悩み事を聞いてくれる人	18	いる	4 (14.8)	14 (50.0)	**
	37	いない	23 (85.2)	14 (50.0)	
元気づけてくれる人	22	いる	8 (29.6)	14 (50.0)	
	33	いない	19 (70.4)	14 (50.0)	
くつろいだ気分にしてくれる人	16	いる	3 (11.1)	13 (50.0)	**
	37	いない	24 (88.9)	13 (50.0)	
一緒に食事を楽しむ人	17	いる	5 (18.5)	12 (46.2)	
	36	いない	22 (81.5)	14 (53.8)	
病気の時看病や世話をしてくれる人	18	いる	9 (33.3)	9 (32.1)	
	37	いない	18 (66.7)	19 (67.9)	
ちょっとした用事を頼める人	27	いる	13 (48.1)	14 (51.9)	
	27	いない	14 (51.9)	13 (48.1)	
いらいらさせたり怒らせる人	14	いる	7 (25.9)	7 (25.0)	
	41	いない	20 (74.1)	21 (75.0)	
文句や小言を言う人	17	いる	9 (33.3)	8 (28.6)	
	38	いない	18 (66.7)	20 (71.4)	
余計なお世話をする人	13	いる	5 (18.5)	8 (28.6)	
	42	いない	22 (81.5)	20 (71.4)	
面倒をかける人	5	いる	2 (7.4)	3 (11.1)	
	49	いない	25 (92.6)	24 (88.9)	

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

表 志津子・白井 みどり・柳堀 朗子

「くつろいだ気分にしてくれる人がある」と回答した者は男性3名(11.1%)、女性13名(81.2%)であった。性別で有意な差(p<0.01)がみられ、くつろいだ気分にしてくれる人があると回答した者は女性が多かった。

「一緒に食事を楽しむ人がある」と回答した者は男性5名(18.5%)女性12名(46.2%)で、性別による有意な差はみられなかった。

「病気の時看病や世話をしてくれる人がある」、「ちょっとした用事を頼める人がある」の項目では、男女とも約半数が肯定的なサポートである援助をしてくれる人があると回答しており、性別による有意差はみられなかった。「いらいらさせたり怒らせる人がある」、「文句や小言を言う人がある」の項目では、男女とも約3割が否定的なサポートをする人があると回答しており、性別による差はみられなかった。

4. 性別にみた施設内人間関係と健康満足感の関連

施設内の人間関係と健康満足感について検討した結果を表5に示す。男性では、「いらいらさせたり怒らせる人がある」と回答した7名のうち「健康状態に不安がある」と回答した者は5名(71.4%)で有意(p<0.05)に多かった。「文句や小言を言う人がある」と回答した9名のうち「健康状態に不安がある」と回答した者は6名(66.7%)で有意(p<0.05)に多かった。「心配事や悩み事を聞いてくれる人がある」、「くつろいだ気分にしてくれる人がある」、「病気の時看病してくれる人がある」では、健康満足感との間に有意な差は認められなかったが、「健康状態に満足している」と回答する傾向がみられた。

表5 施設内の人間関係と健康満足感との関連

施設内人間関係		健康満足感					
		男 (%)			女 (%)		
		満足	どちらでもない	不安	満足	どちらでもない	不安
心配事や悩み事を聞いてくれる人	いる	3 (75.0)	0	1 (25.0)	8 (57.1)	0	6 (42.9)*
	いない	8 (34.8)	6 (26.1)	9 (39.1)	5 (35.7)	5 (35.7)	4 (28.6)
元気づけてくれる人	いる	4 (50.0)	0	4 (50.0)	9 (64.3)	0	5 (35.7)*
	いない	7 (36.8)	6 (31.6)	6 (31.6)	4 (28.6)	5 (35.7)	5 (35.7)
くつろいだ気分にしてくれる人	いる	2 (66.7)	0	1 (33.3)	9 (69.2)	0	4 (30.8)*
	いない	9 (37.5)	6 (25.0)	9 (37.5)	3 (23.1)	4 (30.8)	6 (46.2)
一緒に食事を楽しむ人	いる	3 (60.0)	0	2 (40.0)	7 (58.3)	1 (8.3)	4 (33.3)
	いない	8 (36.4)	6 (27.3)	8 (36.4)	5 (35.7)	3 (21.4)	6 (42.9)
病気の時看病や世話をしてくれる人	いる	6 (66.7)	0	3 (33.3)	6 (66.7)	1 (11.1)	2 (22.2)
	いない	5 (27.8)	6 (33.3)	7 (38.9)	7 (36.8)	4 (21.1)	8 (42.1)
ちょっとした用事を頼める人	いる	5 (38.5)	3 (21.4)	5 (35.7)	9 (64.3)	1 (7.1)	4 (28.6)
	いない	6 (42.9)	3 (21.4)	5 (35.7)	4 (30.8)	4 (30.8)	5 (38.5)
いらいらさせたり怒らせる人	いる	0	2 (28.6)	5 (71.4)*	2 (28.6)	1 (14.3)	4 (57.1)
	いない	11 (55.0)	4 (20.0)	5 (25.0)	11 (52.4)	4 (19.0)	6 (28.0)
文句や小言を言う人	いる	1 (11.1)	2 (22.2)	6 (66.7)*	4 (50.0)	2 (25.0)	2 (25.0)
	いない	10 (55.6)	4 (22.2)	4 (22.2)	9 (45.0)	3 (15.0)	8 (40.0)
余計なお世話をする人	いる	1 (20.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	3 (37.5)	3 (37.5)	2 (25.0)
	いない	10 (45.5)	4 (18.2)	8 (36.4)	10 (50.0)	2 (10.0)	8 (40.0)
面倒をかける人	いる	1 (50.0)	1 (50.0)	0	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)
	いない	10 (40.0)	5 (20.0)	10 (40.0)	12 (50.0)	4 (16.7)	8 (33.3)

* p<0.05 ** p<0.01

養護老人ホーム入所者の施設内人間関係に係る要因の検討

女性では、「心配事や悩み事を聞いてくれる人がいる」と回答した14名のうち「健康状態に満足している」と回答した者は8名（57.1%）で有意（ $p < 0.05$ ）に多かった。「元気づけてくれる人がいる」と回答した14名のうち「健康状態に満足している」と回答した者は9名（64.3%）で有意（ $p < 0.05$ ）に多かった。「くつろいだ気分にしてくれる人がいる」と回答した13名のうち「健康状態に満足している」と回答した者は9名（69.2%）で有意（ $p < 0.05$ ）に多かった。「一緒に食事を楽しむ人がいる」、「ちょっとした用事を頼める人がいる」では、健康満足感との間に有意な差は認められなかったが、「健康状態に満足している」と回答する傾向がみられた。

5. 性別にみた施設内人間関係と生活満足感の関連

1) 施設内人間関係と生活の楽しさについて検討した結果を表6に示す。男性では、「ちょっとした用事を頼める人がいる」と回答した13名のうち「生活が楽しい」と回答した者は8名（61.5%）で有意（ $p < 0.05$ ）に多かった。

女性では、「いらいらさせたり怒らせる人がいる」と回答した7名のうち「生活が楽しくない」と回答した者は5名（71.4%）で有意（ $p < 0.01$ ）に多かった。「文句や小言を言う人がいる」「余計なお世話をする人がいる」「面倒をかける人がいる」と回答した者は「生活が楽しい」と回答する傾向がみられた。

表6 施設内の人間関係と生活の楽しさとの関連

施設内人間関係		生活 が 楽 し い			
		男 (%)		女 (%)	
		はい	いいえ	はい	いいえ
心配事や悩み事を聞いてくれる人	いる	1 (25.0)	3 (75.0)	11 (78.6)	3 (21.4)
	いない	10 (43.5)	13 (56.5)	10 (71.4)	4 (28.6)
元気づけてくれる人	いる	3 (37.5)	5 (62.5)	11 (78.6)	3 (21.4)
	いない	8 (42.1)	11 (57.9)	10 (71.4)	4 (28.6)
くつろいだ気分にしてくれる人	いる	2 (66.7)	1 (33.3)	11 (84.6)	2 (15.4)
	いない	9 (37.5)	15 (62.5)	9 (69.2)	4 (30.8)
一緒に食事を楽しむ人	いる	4 (80.0)	1 (20.0)	11 (91.7)	1 (8.3)
	いない	7 (31.8)	15 (68.2)	9 (64.3)	5 (35.7)
病気の時看病や世話をしてくれる人	いる	5 (55.6)	4 (44.4)	6 (66.7)	3 (33.3)
	いない	6 (33.3)	12 (66.7)	15 (78.9)	4 (21.1)
ちょっとした用事を頼める人	いる	8 (61.5)	5 (38.5) *	11 (78.6)	3 (21.4)
	いない	3 (21.4)	11 (78.6)	10 (76.9)	3 (23.1)
いらいらさせたり怒らせる人	いる	2 (28.6)	5 (71.4)	2 (28.6)	5 (71.4) **
	いない	9 (45.0)	11 (55.0)	19 (95.0)	2 (9.5)
文句や小言を言う人	いる	2 (22.2)	7 (77.8)	5 (62.5)	3 (37.5)
	いない	9 (50.0)	9 (50.0)	16 (80.0)	4 (20.0)
余計なお世話をする人	いる	3 (60.0)	2 (40.0)	5 (62.5)	3 (37.5)
	いない	8 (36.4)	14 (63.6)	16 (80.0)	4 (20.0)
面倒をかける人	いる	2 (100)	0	1 (33.3)	2 (66.7)
	いない	9 (36.0)	16 (64.0)	20 (83.3)	4 (16.7)

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

2) 施設内人間関係と経済的余裕について検討した結果を表7に示す。男性では有意な関連はみられなかった。

女性では、「一緒に食事を楽しむ人がある」と回答した12名のうち「経済的余裕がある」と回答した者は12名(100%)で有意(p<0.05)に多かった。また「余計なお世話をする人がある」と回答した8名のうち「経済的余裕がない」と回答した者は4名(50.0%)で有意(p<0.05)に多かった。

表7 施設内の人間関係と経済的余裕との関連

施設内人間関係		経済的余裕がある			
		男 (%)		女 (%)	
		はい	いいえ	はい	いいえ
心配事や悩み事を聞いてくれる人	いる	0	4 (100)	11 (84.6)	2 (15.4)
	いない	10 (45.5)	12 (54.5)	10 (71.4)	4 (28.6)
元気づけてくれる人	いる	4 (50.0)	4 (50.0)	12 (85.7)	2 (14.3)
	いない	6 (33.3)	12 (66.7)	9 (69.2)	4 (30.8)
くつろいだ気分にしてくれる人	いる	2 (66.7)	1 (33.3)	10 (76.9)	3 (23.1)
	いない	8 (34.8)	15 (65.2)	9 (75.0)	3 (25.0)
一緒に食事を楽しむ人	いる	3 (60.0)	2 (40.0)	12 (100)	0 *
	いない	7 (33.3)	14 (66.7)	7 (53.8)	6 (46.2)
病気の時看病や世話をしてくれる人	いる	3 (33.3)	6 (66.7)	6 (66.7)	3 (33.3)
	いない	7 (41.2)	10 (58.9)	15 (83.3)	3 (16.7)
ちょっとした用事を頼める人	いる	7 (53.8)	6 (46.2)	12 (85.7)	2 (14.3)
	いない	3 (23.1)	10 (76.9)	8 (66.7)	4 (33.3)
いらいらさせたり怒らせる人	いる	4 (57.1)	3 (42.9)	3 (50.0)	3 (50.0)
	いない	6 (31.6)	13 (68.4)	18 (85.7)	3 (14.3)
文句や小言を言う人	いる	4 (44.4)	5 (55.6)	6 (75.0)	2 (25.0)
	いない	6 (35.3)	11 (64.7)	15 (78.9)	4 (21.1)
余計なお世話をする人	いる	3 (60.0)	2 (40.0)	4 (50.0)	4 (50.0) *
	いない	7 (33.3)	14 (66.7)	17 (89.5)	2 (10.5)
面倒をかける人	いる	2 (100)	0	3 (100)	0
	いない	8 (33.3)	16 (66.7)	18 (78.3)	5 (21.7)

* p<0.05 ** p<0.01

3) 施設内人間関係と平穏な生活について検討した結果を表8に示す。男性では、「文句や小言を言う人がある」と回答した9名のうち「生活が平穏でない」と回答した者は5名(55.6%)で有意(p<0.05)に多かった。「心配事や悩み事を聞いてくれる人がある」、「元気づけてくれる人がある」、「くつろいだ気分にしてくれる人がある」、「一緒に食事を楽しむ人がある」と回答した者全員が「生活が平穏である」と回答していた。

女性では、「いらいらさせたり怒らせる人がある」と回答した者7名のうち「生活が平穏でない」と回答した者3人(42.9%)で有意(p<0.05)に多かった。「くつろいだ気分にしてくれる人がある」「一緒に食事を楽しむ人がある」と回答した者全員が「生活が平穏である」と回答していた。

養護老人ホーム入所者の施設内人間関係に係る要因の検討

表8 施設内の人間関係と生活の平穏さとの関連

施設内人間関係		平穏な生活である			
		男 (%)		女 (%)	
		はい	いいえ	はい	いいえ
心配事や悩み事を聞いてくれる人	いる	4 (100)	0	13 (92.9)	1 (7.1)
	いない	15 (68.2)	7 (31.8)	11 (78.6)	3 (21.4)
元気づけてくれる人	いる	7 (100)	0	13 (92.9)	1 (7.1)
	いない	12 (63.2)	7 (36.8)	11 (78.6)	3 (21.4)
くつろいだ気分にしてくれる人	いる	3 (100)	0	13 (100)	0
	いない	16 (69.6)	7 (30.4)	10 (76.9)	3 (23.1)
一緒に食事を楽しむ人	いる	5 (100)	0	12 (100)	0
	いない	14 (66.7)	7 (33.3)	11 (78.6)	3 (21.4)
病気の時看病や世話をしてくれる人	いる	8 (88.9)	1 (11.1)	7 (77.8)	2 (22.2)
	いない	11 (64.7)	6 (35.3)	17 (89.5)	2 (10.5)
ちょっとした用事を頼める人	いる	10 (76.9)	3 (23.1)	13 (92.9)	1 (7.1)
	いない	9 (69.2)	4 (30.8)	10 (76.9)	3 (23.1)
いらいらさせたり怒らせる人	いる	3 (42.9)	4 (57.1)	4 (57.1)	3 (42.9) *
	いない	16 (84.2)	3 (15.8)	20 (95.2)	1 (4.8)
文句や小言を言う人	いる	4 (44.4)	5 (55.6) *	7 (87.5)	1 (12.5)
	いない	15 (88.2)	2 (11.8)	17 (85.0)	3 (15.0)
余計なお世話をする人	いる	3 (60.0)	2 (40.0)	5 (62.5)	3 (37.5)
	いない	16 (76.2)	5 (23.8)	19 (95.0)	1 (5.0)
面倒をかける人	いる	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (33.3)	2 (66.7)
	いない	18 (75.0)	6 (25.0)	23 (95.8)	1 (4.2)

* p < 0.05 ** p < 0.01

4) 施設内人間関係と生活の不満について検討した結果を表9に示す。男性では有意な関連はみられなかった。「心配事や悩み事を聞いてくれる人がいる」「元気づけてくれる人がいる」「くつろいだ気分にしてくれる人がいる」と回答した者全員が「生活に不満はない」と回答していた。

女性では、「いらいらさせたり怒らせる人がいる」と回答した者7名のうち「生活に不満がある」と回答した者は4名(57.1%)で有意(p < 0.05)に多かった。

表9 施設内の人間関係と生活への不満との関連

施設内人間関係		生活に不満がある			
		男 (%)		女 (%)	
		はい	いいえ	はい	いいえ
心配事や悩み事を聞いてくれる人	いる	0	4 (100)	2 (14.3)	12 (85.7)
	いない	5 (21.7)	18 (78.3)	5 (35.7)	9 (64.3)
元気づけてくれる人	いる	0	8 (100)	2 (14.3)	12 (85.7)
	いない	5 (26.3)	17 (73.7)	5 (35.7)	9 (64.3)
くつろいだ気分にしてくれる人	いる	0	3 (100)	2 (15.4)	11 (84.6)
	いない	5 (20.8)	19 (79.2)	4 (30.8)	9 (69.2)
一緒に食事を楽しむ人	いる	1 (20.0)	4 (80.0)	1 (8.3)	11 (91.7)
	いない	4 (18.2)	18 (81.8)	5 (35.7)	9 (64.3)
病気の時看病や世話をしてくれる人	いる	1 (11.1)	8 (88.9)	3 (33.3)	6 (66.7)
	いない	4 (22.2)	14 (77.8)	4 (21.1)	15 (78.9)
ちょっとした用事を頼める人	いる	2 (15.4)	11 (84.6)	3 (21.4)	11 (78.6)
	いない	3 (21.4)	11 (78.6)	3 (23.1)	19 (76.9)
いらいらさせたり怒らせる人	いる	1 (14.3)	6 (85.7)	4 (57.1)	3 (42.9) *
	いない	4 (20.0)	16 (80.0)	3 (14.3)	18 (87.5)
文句や小言を言う人	いる	3 (33.3)	6 (66.7)	3 (37.5)	5 (62.5)
	いない	2 (11.1)	16 (88.9)	4 (20.0)	16 (80.0)
余計なお世話をする人	いる	2 (40.0)	3 (60.0)	4 (50.0)	4 (50.0)
	いない	3 (13.6)	19 (86.4)	3 (15.0)	17 (85.0)
面倒をかける人	いる	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (66.7)	1 (33.3)
	いない	4 (16.0)	21 (84.0)	4 (16.7)	20 (83.3)

* p < 0.05 ** p < 0.01

IV 考察

1. 対象者の健康状態、生活満足感、健康満足感

基本的な日常生活動作はほぼ自立していたが、生活関連動作では入所者の約半数の者が何らかの援助を必要としていた。特に電話をかける、外出するといった施設外での活動に関連する動作では何らかの援助を必要としており、入所者の生活範囲はおのずと施設内に限定される傾向にあると考えられた。

生活満足感では、女性が有意に「生活が楽しい」「経済的余裕がある」と回答していた。生活を楽しむ満足な生活をおくるには、人間の基本的欲求を考えると趣味や生きがいとなる活動などが関連してくる。その活動のためには経済的な基盤が必要となることもあり、施設入所者の場合も生活の満足感には経済的な余裕の有無が影響していると考えられる。

健康満足感では、性別による有意差はなかったが、男女合せ約40%の者が健康に不安があると回答していた。一般高齢者の場合でも約50%の者に健康への不安感がある³⁾と報告されており、今回の対象者はやや低い結果であった。本調査施設の入所者は生活習慣病や加齢による疾患を複数有しており、服薬管理の必要な者は50%以上である。平均年齢が約76歳である入所者の今後の加齢による機能低下は避けられず、できるだけ自立した生活を送れるよう、健康を維持し健康に満足感をもてるような支援を配慮していく必要性があるといえる。

2. 施設内人間関係と健康満足感・生活満足感

施設内の人間関係では、女性の方が男性に比べ肯定的なサポート関係がある者が有意に多かった。高齢の女性では一般に近所づきあいをする比率が男性に比べてやや高く、友人関係が保持されやすい傾向にある⁴⁾と報告されており、施設入所している本対象者の場合も同じような傾向であると考えられた。施設内人間関係と健康満足感との関連では、女性の場合、「くつろいだ気分にしてくれる人」である肯定的なサポート関係のある者に健康に満足感をもつ者が有意に多かった。男性の場合では、施設内の人間関係に有意差はみられなかったが、健康満足感との関連では「いらいらさせたり怒らせたりする人」である否定的なサポートの関係をあげる者に健康に不安をもつ者が有意に多かった。男女共に健康満足感と人間関係の関連が示唆され、本調査では女性の方が男性に比べ親しい関係の者を有していた。男性の場合、サポートの多さは自立性の弱さを意味するのではないか²⁾という報告もあり、女性とは違う傾向がみられる。施設内での人間関係を考える場合、性別によりサポート内容のもつ意味が異なることを考慮していく必要があると考えられた。また入所者同士が良好な人間関係を作り継続させるためには、性別による特性に配慮しながら健康管理を十分に行い、健康満足感をもてるように支援するケアが必要と考えられた。

生活満足感との関連では、女性の場合、「いらいらさせたり怒らせる人」など否定的なサポート関係がある者は生活が楽しくないと回答しており、男性の場合に「ちょっとした用事を頼める人」がいる者は生活が楽しいと回答していた。男性と女性では好ましい人間関係のあり方でサポートの持つ意味に違いがあると考えられたが、男性の場合生活が楽しいと感じるには、女性に多かつ

養護老人ホーム入所者の施設内人間関係に係る要因の検討

た情緒的なサポートではなく、入所者間で手段的サポートが得られる人間関係があることが影響していると考えられた。また、「いらいらさせたり怒らせる人」「文句や小言を言う人」がいると回答した女性は、生活が平穏でなく、生活に不満があると回答していた。施設では様々な生活背景や価値観を持つ者が生活しているので、その違いから来る感情の行き違いもあると考えられるが、人間関係に否定的なサポート関係があると生活に満足感が得られないと考えられた。入所者間の人間関係が生活の質に与える影響は大きいといえる。

「一緒に食事を楽しむ人」がいる者は女性の場合、経済的余裕があると回答していた。女性は男性に比べ経済的余裕のある者が多かった。経済状態は生活の基盤であり、生活全般の満足感に影響を与える。施設入所者であっても、そこで生活するのに必要な衣・食については経済状態によって左右される。また、施設の食事以外の嗜好品やアルコール飲料などの補食の購入にも差がでる。施設内の食事は入所者が食事を通して交流を深める場でもあるが、入所者が一同に会するため捕食購入状況がわかり、経済状況を意識する場面となる。養護老人ホームでは、現在は所得に応じた費用負担をして入所する人も増えており、すべての人が生活困窮者ではない現状⁵⁾であり、本対象者でも約6割の者は経済的余裕があると回答していた。個々の経済状態には違いがあるが、経済的余裕は、人間関係をつくるうえで影響を及ぼす要因であると考えられた。

V おわりに

養護老人ホーム入所者の人間関係は、健康満足感や生活満足感に関連があると考えられた。施設入所者が良好な人間関係の中で生活していくために、健康管理を十分行い入居者の日常生活動作を維持できるようなケアの方法をとり入れることが重要である。また、経済的な余裕が施設入所者の場合も重要な生活の基盤であり、人間関係を築く上での要因となっていることが示唆された。経済的困窮が入所理由の者もいる中で、どのように援助すれば良好な人間関係に結びつくのかということは今後の課題である。さらに施設内の人間関係を考える際には、男性と女性で求める内容が違うことを考慮し支援していかなければならない。本調査は一施設の入所者を対象としたものであり、今後は対象施設を増やしその施設の特徴や入所者個々の背景を検討していくことが必要である。

謝辞

本研究をまとめるにあたり調査に協力していただいた養護老人ホームの入所者及び職員の皆さんに深く感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 厚生統計協会編：国民の福祉の動向，(12)46，1999，181
- 2) 野口裕二：高齢者のソーシャルサポート：その概念と測定，社会老年学，34，37-48
- 3) 総務庁長官官房高齢社会対策室監修：高齢者の生活と意識，中央法規，1997，182-183
- 4) 総務庁長官官房高齢社会対策室監修：高齢者の生活と意識，中央法規，1997，143-147

表 志津子・白井 みどり・柳堀 朗子

- 5) 田中荘司：養護老人ホームの歴史と今後の役割，ふれあいケア，全国社会福祉協議会出版部，12，1995，11-12
- 6) 松浦尊磨：特別養護老人ホームにおける健康管理に関する多角的検討，老年社会科学17(2)，1996
- 7) 杉山善朗、他：老年期の社会適応に影響を及ぼす心理的要因：両者の関連，老年精神医学雑誌，9(4)，1998
- 8) 外山 義：老年期の社会適応に影響を及ぼす環境的要因，老年精神医学雑誌，9(4)，1998
- 9) 杉沢秀博：老年期の社会適応に影響を及ぼす身体的要因，老年精神医学雑誌，9(4)，1998
- 10) 潮谷有三；老人ホーム入居者の生きがいに関する研究：主観的幸福感を中心として，日本社会事業大学，1993
- 11) 潮谷有三：施設入居高齢者の健康感と主観的幸福に関する研究：養護老人ホーム入居者を中心として，仙台大学紀要，1998
- 12) 山本真一、他：養護老人ホームにおける高齢者の生活と諸問題，島根大学教育学部紀要，1994
- 13) 梁 明玉：施設入所高齢者の友人関係・親子関係と幸福感との関連について，老年社会科学21(2)，1996
- 14) 伊藤 桜：養護老人ホーム利用者の個別性に着いての研究，静岡県立大学短期大学部紀要，1997
- 15) 児玉桂子、他：高齢者居住施設環境評定尺度による養護老人ホームと軽費老人ホームの環境条件の分析，老年社会科学，9，1987
- 16) 城 佳子、他：高齢者の居住状況とストレス：プライバシーの視点から，老年社会科学，(21) 1999
- 17) 三宅勇：介護保険と養護老人ホームのあり方，老人生活研究，319，(財)老人生活研究所，1997
- 18) 安藤順一、他：21世紀高齢者福祉の選択：豊かな老年期を創るために，中央法規出版，1996
- 19) 前期高齢者と後期高齢者の健康状態とソーシャルサポート・ネットワーク：農村地域における高齢者（69～80歳）の比較研究：岸 玲子、他，日本公衆衛生雑誌，43(12)，1996